

# 東リ演

■東リ演 加盟のしおり

のしおり

## 加盟劇団連名

西日本リリズム演劇会議 東日本リリズム演劇会議

関西芸術座	大阪市阿倍野区文ノ里 4-18-6	劇団さつぼろ	札幌市琴似山の二手二条1丁目
劇団 なぎ	# 東成区中道元町 2-96 八坂神社内	劇団新劇場	# 旭町10 貝谷ビル研究席内
演劇集団息吹	八尾市堤町 1-40	弘前演劇研究会	弘前市品川町1-7ラゾール内
南大阪演劇研究会	大阪市大正区泉尾中通 3-12 仲田荘赤松方	仙台小劇場	仙台市芳野地字大谷地3-3早川方
劇団 潮流	# 南区上本町 4-625 兼ビル	部馬 中芸	前橋市昭和町3-15-2
劇団 未来	# 住吉区長居町東 4-52 山田方	演劇集団土の会	東京都港区西麻布 4-5-9
大阪協同劇場	吹田市津雲台 5-15 D 33-307 奥井方	舞芸小劇場	# 豊島区西池袋 3-5-19
人形劇団クラルテ	大阪市住吉区南加賀屋町 16	劇団 労芸	# 品川区南大井 1-14-16
劇団 京芸	京都市伏見区納所北城堀 31-18	劇団 協同	# 国立市北3-2
人 間 座	# 北区柴野大徳寺電停前 京都視力センタービル	青年劇場	# 葛飾区水元小台町 1941
人形劇団京芸	# 下京区河原町七条東 梓木町 河合方	劇団 埼芸	川口市瀬家 5-1-69
劇団四紀会	神戸市兵庫区荒田町 3-6 宝地院内	京浜協同劇団	川崎市古市場 2-109
劇団いこら	和歌山県岬町磯茂 栗原方	よこはま青年座	横浜市中区滝の上 129
劇団 福演	福山市本町 3-3 杉原方	劇団やまなみ	甲府市青沼 1-8-5
劇団月曜会	広島市庚午北 2-12-28 土屋方	信濃小劇場	松本市栗志 2-6-8
劇団 こじか座	松山市垂水町 87	劇団 静芸	静岡市御膳町 289-2
劇団桑の実	今治市中寺松並木 1118 横田方	劇団つくしの会	富士宮市西町 20-2
劇団若者座	宇都口市常盤町 1-1-2	劇団からつかけ	浜松市教場町 315
福岡現代劇場	福岡市南庄 1-87	名古屋芸術劇場	名古屋市南区汐田町 3-40 栗木方
劇団生活舞台	福岡市警固 2丁目 9-18	四日市市民劇場	# 中区栄 4丁目 9-26 大東ビル
		劇団すかお	桑名市大福 229-1 徳勝方
		上野市民劇場	上野市丸ノ内中央公民館内
		劇団はぐるま	岐阜市西新町 1

- 加盟劇団連名
- 加盟のすすめ
- 結成のよびかけ
- 結成のことば
- 東リ演規約
- 第八回総会運動方針

東日本リリズム演劇会議

## 東リ演加盟のすすめ

議長 黒沢 参吉

東日本の各地で、さまざまな困難とたたかひながら、すぐれた芝居をつくるため、それ  
を多くの人々に観てもらうため、日夜努力をかさねている地域劇団、働くものの劇団の皆  
さんに、仲間のあいさつをおくりします。  
東日本リアリズム演劇会議（略称「東リ演」）は、皆さんの劇団が東リ演に加盟されるよ  
う、よびかけるものです。  
皆さんの劇団の加盟が、皆さんの劇団と地域の文化情勢を発展させ、東リ演をいっせう  
強化し、ひいては日本のあたらしい演劇運動を大きく前進させることに役立つ、と確信す  
るからです。  
このパンフレットは、東リ演がどういふ組織なのか、どういふ目的をもって、どうい  
ふ活動をしているのかを知って載けたためにつくりました。皆さんがこのパンフレットを  
読んで資料に話合いをかかめ、劇団全体の賛同によって加盟を実現されること、東リ演の  
希望であります。

### 目

東リ演は、一九六二年に結成された西日本リアリズム演劇会議（西リ演）に学び、その  
援助をうけて翌六三年夏生まれました。  
ご承知のように、一〇年前一九六〇年には、日米安保条約をめぐって国民的なたたか  
いがあり、東京の専門新劇人たちも新劇人会議に結集して条約の改定阻止にたたらあがりま  
したが、このことは、体制の反動化に抗し、民主主義と革新の立場をつらねてきた日本  
の新興の正しい伝統をひきつぎ生かすものとして、国民を励ますとともに、私たち全国各  
地の地域劇団、働くものの劇団にも大きな影響をあたえました。  
一九二〇年代、東京東部で労働文化運動の先駆者一平沢計七による労働劇団の活動等に

端を築いた、労働者、勤労階級の演劇活動は、一九三〇年代のプロレタリア演劇運動の短  
い昂揚期に全国的なひろがりをつくりましたが、その後日本の帝国主義侵略戦争の拡大に  
つれ、加わる弾圧によって潰滅させられました。  
一九四五五年の敗戦は、いったん旧支配勢力を後退させ、働くものの演劇活動も高まる勞  
働運動と結びついて全国の職場を中心に芽をふき、積極的な専門新劇人の協力、自覚的な  
サークル間の学びあいによって、急速に成長しましたが、新たな支配者アメリカのアジア  
侵略のプログラム化にもなり、反動勢力の復活と進歩勢力への攻撃は、ようやく自立し  
た働くものの演劇からその可能性をうばい、一九五〇年開始された朝鮮戦争は、日本を再  
び冬の時代へ追いこみました。  
そこで、一九五〇年代の働くものの演劇活動の特徴は、その主流が職場から地域へ移っ  
たところにあります。それは主だったメンバーが職場をベースにされた事情によりますが、  
このことから、つくる芝居の内容、サークルから劇団への脱皮、構成員の問題、観客との  
関係、財政のこと等々が、まったく新しい課題になりました。  
私たちの劇団は、それぞれ地域に孤立し、支持してくれる観客を唯一のたよりに、手  
さぐりの試行錯誤をながく続けなければなりません。それが、たとえ川崎と静岡、  
岐阜と名古屋というように交流をはじめ、そこから互いの活動経験を学びあえるようにな  
ったのは、五〇年代のおわり頃からでした。  
ですから、安保闘争の中で新劇人会議が生まれ、さらに二年後西日本一七の劇団によっ  
て西リ演がつくられたのは、「結成のよびかけ」にもあるとおり、私たちが待ち望んでい  
たことであり、東リ演結成の機運は急速にもりあがったのです。

### 目

東西リ演について、中央―東京に対する地方劇団の、また専門劇団に対する働くもの

劇団の結果体というみかたが、一般にされていますが、それではこの組織の充分な理解と  
 はいえませんが、ここには、東京や大阪の劇団も、また青年劇場や関西芸術座などの専門劇  
 団も加盟しているばかりでなく、例くもの劇団であっても、今日の観客のほんとうの要  
 求にこたえる芝居をつくること、私たちの最高の課題であるからです。

中央であれ地方であれ、専門であれ業余であれ、日本人たちの地域と観客に責任と影響  
 力をもつ劇団が、交流によってお互いの活動から学び、協力によって日本の現実を渡える  
 力となる芝居リアリズム演劇を確立するところに、東西演劇の目的はあります。

ですからこの組織は、普通の連絡協議会とちがって、運動のよきとなる現実をみる目か  
 ら舞台づくりの方法にいたるすべての場で、お互いの自主性、独自性を尊重しつつ、しか  
 も、全体として高い統一性をもとめていく協同体なのです。

●

一九七〇年四月から六月にかけて、東演は西演と提携して、「七〇演劇行動」をお  
 こしました。

・安保なくせ、沖繩かえせ、をスロリガンに、北海道から九州にいたる文字どおり日  
 本を縦断する五〇余劇団の参加による「七〇演劇行動」は、さまざまな成果と多くの観客  
 の支持を獲得しました。全国の劇団が共通の目標をかかげて、数多くの制作をつくり、  
 地域のなかま劇団、労演、文化集団と連携し、こうした統一行動を実現したのは、日本の  
 演劇史に例のないことですが、ここに、東西演劇を母胎とした運動のたかまをみること  
 ができます。

私たちは東演演劇に結集することで、まず孤立感から解放され、広い視野と将来の展望を  
 もつようになつたといえます。

西日本もふくめ、四四の劇団は職業・業余のちがいはあっても、地域と観客に責任をお

う創造集団として、同じ目的のために奮闘しており、そのことが私たちに限りなく励まし  
 てくれます。苦しい困難な路を前進しているのは私たちだけでない、こんなに多くの劇  
 団一なかが一筋なのだという実感が、殊に毎年夏ひらかれる全国合同ゼミナール（七〇  
 年夏第一〇回には、五八団体三一七名が結集）、東演演劇会でヒシヒシ味わります。

こうした精神的な励ましと同時に、東演の連帯がもたらす具体的な実益も大きく、し  
 かも日をおって増えていきます。

前述のゼミ・総会をはじめ、創作、経営、新人教育などの研究活動、六つのプロク単  
 位でおこなうゼミ、観劇と合評交流、各種学習会、レクリエーションなどの中で、また、  
 それを契機につくられるなかま劇団との個別的な交流の中で、私たちは創造、普及、組織  
 を強化するための取組を、たくさん手に入れてきたのです。

とくに、一九六八年東西合同の機関誌として「演劇会議」（季刊）現在一六号）の発行  
 がはじまって以来、これを媒体としての実践活動の交換、運動理論の向上は一段と発展し  
 ています。

●

このように、東演をつくり、それを核に結束することで、私たちの運動は大きく進歩  
 したといえることができます。

しかし、重要な七〇年代のスタートをきった今日、課せられた任務にたつて、私たち  
 の力はけつして充分とはいえません。また、現実そのものも、六〇年代に比べていっそり  
 困難さ、複雑さを加えるであろうことはご承知のとおりです。

私たちは現実に学んで運動の未来に確信をもち、労演や専門劇団と力をあわせて、観客  
 である国民の正しい要求にねざす芝居を、質量ともに発展させ、職場地域におかすの劇団  
 ・サークルをひろげ、地域の文化センターと一体になって、民主的な文化の統一戦線をつ

# 結成のよびかけ

(1963年7月)

今年四月はじめ、静岡市に集った私たち、名古屋演劇集団、岐阜はぐるま、静岡芸術劇場、京浜協同劇団の四劇団は、八西日本リアリズム演劇会議からの代表をふくめての話しあいの結果、八東日本リアリズム演劇会議の結成について、原則的な考え方の一致をみたので、準備会を発足させると共に東日本の演劇の仲間はこのよびかけをおこなうことを決めました。

私たち四劇団は、歴史も条件もそれぞれ異なりながら観客との緊密なむすびつきを何よりも大切にし、その高度の要求を鑑に自分たちの創造と普及のしごとを履開しようとする共通点から相互に交流し学びあひ兄弟

の関係を今日までにつくりあげてきました。それは単に儀礼的な交際や一時的な連番行動に止まらず、劇団活動全体の長所を共同のよるところとし欠陥を自己の改めんとす、そういう質のものに成長したのであります。

私たちはいま日本の演劇状況を展望する中で、正しい世界観にねざし、観客との固い結合を土台に、新しい演劇を生みひろめる努力が、職業非職業、職場地域等の碎をこえた折山の演劇集団によってなされているのを知ります。自分の観客に責任をもつこれらの活動がどんなに私たちをつよく支え、励ましてくれるか、はかり知りません。

私たちはあなな方未知の仲間ともしかり手を結びたいと希います。日本の新しい演劇を、その伝統と観客に学びつつ創りだし、ひろくかえして行く運動がそれぞれ自体求めるのは私たちの固結です。日本の演劇状況にあるがままに認め、その枠内での自由に懸つくり方から、私たちが自主的に演劇状況をつくりだすやり方に転換するために、最高の道徳―私たちの固結を現実的に即して熱望します。八東日本リアリズム演劇会議のよびかけは完成した既成組織への参加勧誘ではなく、あなた方はどう考えておられるか、の問いかけであります。この組織は当然私たちの必要に即してつくらねばなりません。

くださればなりません。

そのためには、東り演への加盟劇団を増やし、お互いの経験に学び協力して理論をかめ、劇団と東り演双方の力量をつよめることが、きわめて大切であります。

私たちの力量とは、固結し集中する力量です。古い歴史をもつ劇団にはそれにかさわしい能力があり、新しい劇団には若々しいエネルギーがあります。そして学びあひは、古い劇団から新しい劇団への一方交通ではなく、現在では、若い劇団の活動が歴史ある劇団を擇べる場合も少なくないのです。とてもそれだけの力量がないと、東り演への加盟をためらう例が多いのですが、そうではなく、すべての力量を固結させ集中させることで、私たち全体の力量をつよめるのだと、考えようではありませんか。

皆さんの劇団の東り演加盟によって、七〇年代がもためている日本の演劇運動の新しい飛躍を、いっそう確かなものにしてしまひよう。



一九六〇年、安保放棄の闘いに新劇人が結集したことは、日本の演劇史に誇り高い一頁を加えました。政治の危機にあつた統一行動は国民をばげますと共に、新劇人が文化上演劇のジャンネルでは、最低思ひすこしを裏切るほど紳士的であり、没義道な暴力の行為はしないであらう、と私たちは期待すべきでしょうか。

産業界国会の演劇運動なるものをおすすめている人のことは記憶しておいていことです。全国民的な反対一線感を無視して新安保条約を成立させ、いままた日韓会談やアメリカ原子力潜水艦の寄港やF105D機の配備を、没義道に暴力的に押し通そうとしているからが、文化上演劇のジャンネルでは、最低思ひすこしを裏切るほど紳士的であり、没義道な暴力の行為はしないであらう、と私たちは期待すべきでしょうか。

らるの政策を判断すべきではないでしょうか。そして、こりみてくると、私たちが演劇生活の日常の中でかえている、一見集団内部の問題の殆んどもその根をふかく洗いだしていくと、必ずこの根本的なから思想一政策にぶつかるとに気づくのです。たとえば、NAD Aに關して、アマチュア演劇の官僚統制という疑惑に対して創設にあつた善意の人々は思ひすこしだと一蹴してしますが、地方では助成金がほしければNAD Aに加盟せよと称している教育委員会もでており、この善意の人々の中にはかつて戦争中、やはり思ひすこしだと説きながら産業界国会の演劇運動なるものをおすすめている人のことは記憶しておいていことです。全国民的な反対一線感を無視して新安保条約を成立させ、いままた日韓会談やアメリカ原子力潜水艦の寄港やF105D機の配備を、没義道に暴力的に押し通そうとしているからが、文化上演劇のジャンネルでは、最低思ひすこしを裏切るほど紳士的であり、没義道な暴力の行為はしないであらう、と私たちは期待すべきでしょうか。

演劇がさまざまな意味で現実を反映するものであり、また現実に支配されるものである以上、私たちは日本の現実をつくりだしている政治に否応なく直面させられてきました。半世紀にわたる日本新劇史の側面が、その政治との関連であるのも、演劇創造の根が新しい日本を生みだす国民的なエネルギーとその基礎を同じくしているからであり、私たちの演劇がその頭に入新しいVと冠せられたのも、そこに深い意味がある訳です。

いま日本を権力で支配している日本とアメリカの支配層が、どういウプログラマをもちどうそれを進めているかについてとまかく検討するのは、このよびかけの主旨的でありせん。

唯かれらが、日本の労働者階級を搾取と弾圧と分裂で骨ぬきにし、ひろい国民層と切離し、安保体制を軸に反核戦争の方向に一歩一歩もって行こうとしており、そのためにどんな方法でも、新しい日本の理念と行動を粉砕し、古い日本の永久的な維持に力を注いでいる点を現実に即してつかむところから、演劇と政治について私たちが共通の言葉と行動がもてるのではないでしようか。

「私たちの側で、芸術と現実、演劇と政治の関連や断絶について語っているうちに」、いわゆるケネディライシヤフーコラスが思想・学術・教育・文化の領域でどう

劇本来の運動の側面を隠すものとして、国民の胸に新劇人会議の存在を焼きつけました。

そしてまた私たちが、あの時期をビークとするさまざまな経験を辿り、自分たちの演劇について徹底的に考えさせられることになりました。自分たちのしごとが誰の何のために必要なのか、その課題を果たすために何が必要なのか、という一見素朴な問題を一つ一つの仕事でときほぐし裏付けてくる中で、私たちは改めてそれぞれ観客と新鮮に触れあつたのです。それは、劇団から与えられるのを待つのではなく、劇団に与えるもので充実した観客であり、しかもその要求は回を追うことに質も高く量も多くなつてきました。私たちは演劇リアリズムというものを、ここから学びはじめたのです。私たちが業余でやっているなどに頓着なく、高い思想性、魅力のある舞台が望まれる、その中で、四つの劇団は互いに求めあつたりよりに集まつたといえます。

私たちは、新しい日本をつくっていく国民の中で、その人々に観てもらつたための演劇をつくっているのです。主体的にはまだ弱いとしても、実はそれぞれの地域で責任のあるしごとが課せられています。地域それぞれの特殊性があり、各演劇集団の特色はありますが、観客に責任を負う立場での全国的な共通した命題はたてられる

すすめられていくかについては、村山知義氏の「アメリカの対日文化攻勢と日本の新劇V」(テアトロ三六号)に詳述されていますが、そこにみるものは「かれらの個々の思想文化のとりえ方の強力を政治性」です。一方で巨大なマスコミの支配を通して国民全体に対する種民地的な根のない文化類縁的な消費モード、政治的無関心をまきちらし、一方で学者文化人を資金や留学の餌につつて、政治と文化芸術を切りはなす芸術のための芸術、上反超階級の思想や、人間疎外、挫折感といった敗北の思想、敵の所在を不明確にし、敵より味方をばげし攻撃する分裂「エゴイズム」の思想を浸透させています。

演劇状況の中でも、日生劇場、ぶどうの会や文学座の分裂、NAD A結成等に引続いてあらわれた、ごく最近の全国労働者層に対する不当な課税や調査のうごきは、そのまま、私たちの創造母体である演劇集団に向けられた攻撃の火ぶたであり、日本の新しい演劇の息の根をとめ、かれらの支配に屈服させる政策の明瞭ならわれとして、まさに政治的に捉え対処する必要があると思ひます。

私たちは、これらの特徴的な事件の一つ一つを切りはなして局部的にみるのではなく、自己の演劇活動、職場地域の文化活動、更に国民生活全域での経験を土台にかれ

し、又たてなければならぬと思ひます。専門劇団に学ぶという事についても、全国各地にすめられてゐる演劇集団と地域の文化・労働・民主組織の提携による創作劇上演運動についても、地域劇団と労演の結びつきについても、こつくりの拠点でとらえられ全国にかゝる必要があると思ひます。

芸術のしごとに統一戦線など、第一でもしないし、無用だという意見があります。この意見のせる根拠は、組織や運動の側面は統一できたとしても、芸術団体としての肝心なための創造上の側面では統一などできっこないといふことが一つ、劇団や演劇人同志の理論的な、又はそれよりも多くの感情的な対立がよつとやせつとではぐれ、それもなく絡みあつた現状に、サジを投げたところにつも一つは狼が喰ひの仔羊で、自分は喰われつてないとおもひこんでいる仔豚みたいな錯覚にあるのではないてしょうか。

勿論、舞台芸術の創造上の問題が、組織的に左右されたり、多数決で正否をきめられたりする客もありませんが、私たちの考えでは現在創造上の善は観客などといつても多くの舞台が、批評活動の面ではいわゆる批評家の方を向いてゐるようです、またその批評にしてもおそろしく規準がよいまいな上に総体乏しく、同時に劇団同

全国的視野と地域定着の姿勢を統一していくの五点を全体の統一と運動の目標としてうらちだしたことは、つよく私たちが判然と志向する全国的結集をめざしての私たちのプログラムの組む必要を痛感させました。私たち四劇団は八東日本リアリズム演劇会議の結成について積極的の一致すると同時に、これが各地域でめいめいの観客に責任をもつて運動をすすめてゐる演劇集団全体に滞在する要求でもあると判断しました。これは、東北・関東・東海のいくつかの集団と話しあつて、すすすまはつきりしてきただけです。私たちがこの仲間たちの意見に基づいて会議の結成は既定方針に賛成するといふ受身の姿勢によるのではなく、それに合致する会議を生みだすために集団めいめいの考え方を要求するの場面に正しく反映すべきであり、その場合次の内容についての私たちの意志統一が会議結成の軸になると考えただけです。(一) 平和と独立、民主主義の確立をめざす日本国民の闘いと、私たちの演劇創造および普及の運動をかたく結合していく上での、実践的な統一。

ら付託された私たちの闘ひ、芸術思想としてのリアリズム演劇の認識と追求についての統一。

志互ひに影響しあひ学びあひありあつてゐると思ひます。地域劇場演劇集団との交流などといつても実り何れを求め合つての交流はつきりせず、専門劇団では素人さんなどはどうも被害者意識がつよすぎるなどといふ素人さんの方では双さんたち切符を売りたいから来たんだなどと言ひ合つていたのでは仕方がないです。統一戦線の問題について、それが私たちの観客と演劇のためには緊急必要だといふ前提より、それが困難だといふ副次的な条件の方を優先して考へることをやめたいと思ひます。私たちが政治の危機における統一行動の貴重な経験を基礎に国民の信頼にたたえうる日本演劇の創造と普及のペースブライズをくつきり把握したいのです。そのためには私たちの活動を排他的に散発的に、しかも後手後手にでなく、それぞれの地点に根をはりつ、全国的な展望をもつて互ひに刺激しあひ、学びあひながらすすめる必要性をくつきり自覚するのです。このよきな中で、昨年度、関西芸術座、山口はぐるま座の提唱で八東日本リアリズム演劇会議が、近畿、中国、四国、九州地方の十七劇団によつて結成され、文化の政を明確にして闘ひ、民族と近代の相互関係を正しく捉へる、リアリズムの基調を現実改革の思想にかゝ、大衆と結合し普及による向上をめざす、創造発展のために

(二) 舞台と運動の成果欠陥、芸術の様式と方法等についての、同志的な批判と反批判、交流と援助をさかんにしてゆくための統一。私たちがこれらの問題点をフランクにしかもねばり強くきわめて、部分の差異に目をうはわれず、弾力のある統一統一を作りたいのです。各集団のもつ歴史、構成、特色、芸術様式等の諸条件を尊重しつ、会議の機能を高めて全国的な創造と運動の展望をひろげ、相互交流を通じて兄弟的な批判と援助の気風をつくりだすべし、観客の高くきびしい要求にこたへることができると違ひありません。それは又八西日本リアリズム演劇会議に呼応する東日本の演劇集団の結集という意味で、わが國の演劇状況にひとつの新しい大道をひらくことにもなるでして、このよびかけがあるななな方の集団でのなしあひによつて、さらに豊富な内容に発展し、あなたの方の参加で八東日本リアリズム演劇会議の一層の充実がからとれるよ

名古屋演劇集団  
岐阜はぐるま  
静岡芸術劇場  
京浜協同劇団

状況のきびしさをかこって守勢をとるでなく、すぐれた創造とリマール普及のしごとを先手とってうちたてていく。われわれの演劇文化状況を主体的に展開していくために、観客に責任を負う集団が緊密に連絡し、力量をつよめていく必要が、しかも急速にあります。

西日本リアリズム演劇会議が、まさに同じ時点で同じ必要から西日本十七集団を結集し、一年間に着実な成果をあげつつあることもわれわれの確信を強めてくれました。

われわれは共通の目標を明らかにし、創造普及の土台になる演劇リアリズムの思想と方法を探求し、国民にとつて必要有効なすべく豊かな舞台芸術を生み出す保証が、この結集にあると思えます。

互いに交流しあい、学びあい、経験を理論に高め、さらに実践でたしかめあり真の連帯の中から、現在点

を拠点とし、拠点文化の共闘が、われわれの観客の演劇への要求は質量ともに最高最大のものであり、しかも日と共に進んでいます。この要求にこたえる事が演劇芸術家の任務であるとともに生甲斐そのものだといえます。

東日本リアリズム演劇会議は、それぞれ地点で観客に責任を負って民族的民主的な演劇の創造と普及のために、ねばり強い仕事を進めていく仲間が集団が、この中に加わって会議を太らせ力をつよめてくれる事を心から期待します。

われわれはこの結集をとおして、日本の演劇の未来像をいきいきとしたビジョンとしてつかみ、歴史と国民から付託された重要な任務を果たします。

一九六三年八月二十五日  
東日本リアリズム演劇会議

- 第四条 当会議は代表者会議および運営委員会によって構成されます。代表者会議は年一回以上、運営委員会が必要に応じて開催します。
- 第五条 代表者会議は、議長、副議長、運営委員、事務局長を選びます。
- 第六条 運営委員会は、当会議の運営に責任をもちます。その退出は代表者会議の互選により任期を一年とします。但し再選はできません。
- 第七条 当会議の会計は会費及び事務費入その他でまかないます。
- 第八条 当会議への加盟、脱退は運営委員会にて、除名は代表者会議で決定します。
- 第九条 本規約の改正は代表者会議で決定します。
- 第十条 本規約は、一九六三年八月二十五日より有効となります。

八月二四、二五日、東京に集ったわれわれは、全体の意志で東日本リアリズム演劇会議を結成しました。

われわれは現実にはち向って真実と美を追求する演劇芸術家として、いま祖国を掩っているきびしい状況から目をそらすことができせん。

アメリカと日本の反動的な結託が強行している投機は、ますます露骨で

## 結成のごとば

(1963年8月)

危険なものになり、このままでは十八年前肝に銘じた、再び戦争の被害者にもまして加害者にも断じてなまめとしたわれわれの誓いは、なしくずしにむしはなれ反故にされかねません。

われわれは今日までそれぞれの場で、平和と民主主義として国の独立を求め、国民の闘いと結びつきながら、演劇創造と普及の活動をすすめてきました。ゆえに観客にうけとめられざるべきえられることによつて、これらの仕事はわれわれを勇気づけたばかりでなく、全く新しい演劇状況をつくりだすことにもなりました。

更に気付いてみると、この状況が日本の各地点で、観客との共闘の中から誕生しているかそえきれぬ真実があつたのです。

われわれは分散してつくられてきたこの新しい状況を演劇運動全体のものにしたいと思つたのです。

- 第一条 当会議は「東日本リアリズム演劇会議」と称し結成の趣旨にもとづく活動をおこなうことを目的とします。
- 第二条 当会議は東日本(中部、北陸、関東、東北、北海道)に所在して演劇活動をおこなない、原則としてその活動によつて一定の成果をあげている演劇集団によつて組織します。
- 第三条 当会議はその目的を達成するために、各演劇集団の主体的条件を尊重しつつ、研究的集会、観劇交流、機関紙等の発行、その他必要な事業をおこなない、創造の高揚と普及に関する協力をしあいます。

## 東日本演劇規約

# 七〇年代の出発にあたって

## 第八回総会運動方針

項目は加盟集団が困難をさげず正面から創造エネルギーの強化のためにとりむねは、欠かすことのできないものとして全加盟劇団によって積極的に支持されました。この事實は、発足以来加盟劇団をはじめ、「西リ演」の兄弟たちやゼミナールに結集してきた全国の仲間たち、各地域、プロシクスの仲間たちとの交流の中で、お互いに真剣に無つめてきた「創作普及活動」を発展向上させるための必要な観点であり、初めて組織的に共通の観点としてお互いに認め合ったことに意義があります。少なくとも六項目の観点で、各集団が点検し総括し、

### 一、昨年度の方針を更に発展させよう

「東リ演」が発足して、すでに九七年たちました。昨年度の総会では、七〇年をひかえて、改めて発足以来の私たちの歩みをふり返り、「東・西リ演」の存在理由と、活動の成果を確認しながらも、肝心の創造普及の活動における弱点を正視し、正しい創造普及の主体を確立し、いきいきとした活動スタイルを身につけるために実践の中で本質的な点検運動を提起しました。提案の六

更に向上するだけでなく、お互いに「創造問題」をこれらを目安にして交流し学び合うことは「東リ演」全体が向上するために、より具体的な一歩を進めたことになりました。又昨年度の総会の決定の中心柱として、「東西リ演」合同企画による七〇年演劇行動がありました。これはまだ八月段階では中間総括の段階とも言えますが、七〇年代の第一歩にお互いに力を揃えて共通の創造課題を追求したことは矢張り意義あることでした。

運動方針  
勿論、それぞれが独自の成り立ちと環境を持つ自主的な劇団が、一定のラックで一定の時期をきめて、戯曲から上演まで、更には「東西リ演」の事業として上演料から報告の集中に至るまでの規定を設けて行なうたのですから、行き過ぎや一面的な限りもなかつたとは言えないでしょう。しかしながら日米共同声明路線と総選挙、公明党・創価学会による言論抑圧、京都府知事選、万国博、六・二三等、六九年末から七〇年にかけての極く短い間に、広接のいともない位の激しい複雑な政治社会情勢に対し、民主勢力の一環として「東西リ演」が組織的にしかも「創造を武器として」たかつたことは、六〇年安保闘争をかえりみたと、民主主義的な演劇創造のたかいたが有効に発展する可能性を持つに至ったのです。

### 二、加盟各集団の要求を生かした「東リ演」の運動

以上、私たちの昨年度の方針は、とにかくも基本的にには團結を固めるより具体的なプログラムとして、ひきついで七〇年代最初の本年度の総会で更に発展させることが大切だと思います。

「東リ演」が六〇年の前半に生れたと言ふことは、直接には戦後を画した六〇年安保のたかいた、その後の情勢に対しての自主的民主的演劇の自覚の現われでありました。六〇年以降米日反動の日本における軍国主義帝國主義復活の強化に対して、民主勢力の一隅として、私たちが拠点を持って有効にたかいたかわなければならぬという切実な要求から「東リ演」は生まれました。

時に文化の面においての現われは、官僚統制の強化や「ヌコミ」の反動化、退廃化やクネズイ、ライオンサワー路線をはじめとする様々な思想攻撃で民主主義的な文化を抑制することとあり、このまま放置しては民族的な文化や自主的民主的な文化はどなるのかと語り危機感から、同じ思いの者が集まって、そのよう反動支配の



演への集中に対する各集団の自覚を高める事、この両方面を欠かずわけにはいきませんし、さらには、この両側面の結合、一体化が目標とされなければならぬでしょう。このよりこまやかに相互の意志を疎通させるため

とその点検はさらに重要で、この問題点は、一般報告（演劇会議15号掲載）に詳しく述べられているのではふきますが、東リ演が独自に要求される課題を果たし、その主体を確立するために、機関車としての運営指導部の機能を高める事、東リ演への集中が、正しい規律性と自覚の確立によって裏打ちされる努力と共に、東リ演の機構と運営委員を初めとする諸役員が、果すべき役割を發揮し切る意識的な実践

らこそ、たなかり拠点になり得るのです。同時に、このような各集団の東リ演運動の展開と東リ演への集中が、正しい規律性と自覚の確立によって裏打ちされる努力と共に、東リ演の機構と運営委員を初めとする諸役員が、果すべき役割を發揮し切る意識的な実践

らこそ、たなかり拠点になり得るのです。同時に、このような各集団の東リ演運動の展開と東リ演への集中が、正しい規律性と自覚の確立によって裏打ちされる努力と共に、東リ演の機構と運営委員を初めとする諸役員が、果すべき役割を發揮し切る意識的な実践

らこそ、たなかり拠点になり得るのです。同時に、このような各集団の東リ演運動の展開と東リ演への集中が、正しい規律性と自覚の確立によって裏打ちされる努力と共に、東リ演の機構と運営委員を初めとする諸役員が、果すべき役割を發揮し切る意識的な実践

らこそ、たなかり拠点になり得るのです。同時に、このような各集団の東リ演運動の展開と東リ演への集中が、正しい規律性と自覚の確立によって裏打ちされる努力と共に、東リ演の機構と運営委員を初めとする諸役員が、果すべき役割を發揮し切る意識的な実践

らこそ、たなかり拠点になり得るのです。同時に、このような各集団の東リ演運動の展開と東リ演への集中が、正しい規律性と自覚の確立によって裏打ちされる努力と共に、東リ演の機構と運営委員を初めとする諸役員が、果すべき役割を發揮し切る意識的な実践

らこそ、たなかり拠点になり得るのです。同時に、このような各集団の東リ演運動の展開と東リ演への集中が、正しい規律性と自覚の確立によって裏打ちされる努力と共に、東リ演の機構と運営委員を初めとする諸役員が、果すべき役割を發揮し切る意識的な実践

### 三、0 演劇行動にひきつづき、創作活動を運動として発展させよう

七〇年演劇行動の戯曲募集で「東リ演」は戯曲創作の面でも運動として初めてのとくくみをしました。結果は後藤「ゼンソクの釘」のよりなクニマスも生まれ、選に入った「演劇会議」掲載戯曲もかなり好評で、一先ず成功

も高めることが大切だと思います。「東リ演」として創作活動を創作運動にまで組織的に

各加盟団体や各作家には創作戯曲についての自主的な予定や計画があり、それらの発展が基本ではありますが、ただそれだけでは「東リ演」全体の創作活動は発展しませ

せん。私たちが演劇の影響をひろげるために、最も大切な戯曲です。発足以来、創作戯曲を重視し、黒沢、小林等を先頭に創作や指導に努力してきました。創作部会はセミナーと共に一度も欠かしたことはありません。創作学校も既に二年開催してきました。

私たちが演劇の影響をひろげるために、最も大切な戯曲です。発足以来、創作戯曲を重視し、黒沢、小林等を先頭に創作や指導に努力してきました。創作部会はセミナーと共に一度も欠かしたことはありません。創作学校も既に二年開催してきました。

私たちが演劇の影響をひろげるために、最も大切な戯曲です。発足以来、創作戯曲を重視し、黒沢、小林等を先頭に創作や指導に努力してきました。創作部会はセミナーと共に一度も欠かしたことはありません。創作学校も既に二年開催してきました。

私たちが演劇の影響をひろげるために、最も大切な戯曲です。発足以来、創作戯曲を重視し、黒沢、小林等を先頭に創作や指導に努力してきました。創作部会はセミナーと共に一度も欠かしたことはありません。創作学校も既に二年開催してきました。

私たちが演劇の影響をひろげるために、最も大切な戯曲です。発足以来、創作戯曲を重視し、黒沢、小林等を先頭に創作や指導に努力してきました。創作部会はセミナーと共に一度も欠かしたことはありません。創作学校も既に二年開催してきました。

形も変わりつつある。とくに日本のように発達した資本主義のもとにあつて、内外の矛盾が尖鋭化しているところでは、小説や演劇の新しい題材となる事件というものはたくさんあると思います。」

私たちは先づ第一に「東リ演」全体が、私たちの身の細りを、このような観点で、何辺も何辺も新鮮な目で見直し、情勢と国民の生活とたまたかいかいを深く学本中で、広範な国民大衆からうけ入れられる戯曲を創作する運動にとりくむことが急務だと思ひます。

「なにをいかにすべきか？」の「東リ演」の一つの柱が「創作劇活動をねばり強い運動にする。」ことではないでしょうか。

これまでも、個々にねばり強く、「東リ演」の作家たちは社会的な真実と正義の観点に立ち、日本の現実、働く者の生活とたまたかいかいをリアルに画くことを努力しつづけてきました。

創作部会においても、昨年度の熱海では、「東リ演」の目玉作家の黒沢、小林の戯曲に対して、激確な鋭い同志的な批判が提起もされました。又非常に貴重な仕事を続けている作間雄二の血の必ひょうな創作体験を皆が学びました。一昨年は民芸の大橋喜一氏の赤裸々な仲間うちの創作体験を学びました。

だつたと思われまふ。

創作学校、七〇年の戯曲舞集の経過の中から新しい多くの作家も生まれてきました。今后も「演劇会議」の創作舞集の定期化、又機関紙等の締切りに間に合せて戯曲を提出するのでなく、いつても一人の作家が書き上げたら東リ演の作家グループは、その作家の求めに応じてクリス・バイ・クリスで、批判、評価を行ない、更に練り上げ良いものにして行く連帯関係をつくつて行くことに努力することも「東リ演」としての大事な日常の仕事の一つです。「すがお」の後藤さんのケースを、もっと組織的にもっと積極的に発展させたいものです。

更に、戯曲の創作を「東リ演」の作家たちだけの問題にとどめず、加盟集団、各構成員全体が、創作劇を皆で集団で創つて行くのだという気分が満ち溢れるような、全体の責任として常に考えられるような企画を創意工夫して次々に行なう必要があります。

「東リ演」に加盟している劇団の特色は、常に地域や職場の広範な各階層の人々の生活とたまたかいかいの中に存在し、共に手をたずさえてたまたかかっているところにあります。六〇年代から七〇年代、日米共同声明路線による安保自動延長下、日本国民が当面している切実な問題は、多

しかしながらこれまでの創作部会は、これだけ貴重な財産が、その場かきりになり、理論的な又実践的な追求がなされず、参加者個々に役立ちこそすれ、「東リ演」の主要な仕事として、創作劇問題が継続的、累積的な財産として全体のものにして行くことができませんでした。これらの反省から、本年度は「東リ演」内外の典型的な戯曲を、一、二本選び、テーマ、手法から、あらゆる観点で、分析し、評価し、私たちの創作に役立て、リアリズムへの理論化を深める方針で、企画したいと思います。更に、「東リ演」自体として、「うたごえ」「労音」「労働」等の大衆的文化団体が自主企画し創作しているような、特定の切実な題材を、創造集団である私たちこそが全体的に或はプロダクト別に、劇団内で、積極的に作つて行く運動を創意工夫して展開して行くことも必要だと思ひます。それらの問題も「創作部会」が責任をもつてこなすじものものであります。このような努力、このような刺激によって、加盟劇団相互、創造集団としての自覚が高まり、激しい矛盾の尖鋭化する現代において、民族的に民主主義的に私たちの演劇を発展させて行く支えになつて行くこととてしまふ。私たちは七〇年演劇行動で出発した、組織的創造的連帯を「創作劇」を基礎に更に発展させる必要があるのです。

敵の国民に戯曲となり、舞台となつて、もつともつかえさせねばなりません。特に六〇年代以降、アメリカへの従属を深めながら、民族自決権も待たずに帝国主義、軍国主義の復活を執ようにはかりながらの高度経済成長の下にあつて、かつては考えられなかつた程の国民への抑圧、収奪、加うるに大独占本位の政策から来る、あらゆる公共物は彼らの不法な専有に委ねられ、道路、港湾はもとより都市、農村から、大自然に至るまで、奪われつつあります。公害という名の独占資本の犯罪によつて、人権はもとより国民の生命すら、はしむまに奪われておる現代にあつて、「演劇の創造普及」を任務とする私たちが、「なにをいかにすべきか？」と厳しく問われていると考えるべきでせう。

特に「アジア人はアジア人同志たまたかわせる。」「アジア帝国主義の肩代りに、日本独占の政府が、本土と沖縄の基地を強化し、経済侵略を強めていくことに着目しなわけには行きません。

このような情勢にあつて、威原惟人さんはこう言つて居ります。「現在、日本は急速に変わりつつある。都市も農村も、労働者も農民も、サラリーマンも学生も変わりつつある。生活も変わり、考えも変わり、たまたかいかい

「はぐるま」の民芸との交流、「京浜協同劇団」の八代表の参加等、組織的にも連帯は前進して居ります。

二三に向けての新劇人会議の総決起集会への「東り演」京都市府知事選における新劇人会議との連帯から、六、です。

的演劇の真の発展のために努力することは、特に重要が積極的に専門家と交流し、相互理解を深め、民主主義機会を揃えて私たちの研究会に又各プロダクションや各劇団れました。

専門家から学ぶべきこととは限りなくあることも教えてくは一つであり、そのために連帯は必要であり、私たちが帯のいとぐちが生れ、職業、非職業の別はあつても目的いにして青年劇場の加盟から、それ以前とは違つた、進的演劇の発展のために努力する姿勢の必要性です。幸よりな多くの劇団と緊密な連帯をもつて、共に民主主義とは専門家から学び交流し、新劇人会議に参加しているりまでもありませんが、特に重視しなければならぬこと価値ある遺産を学び継承して行くことが大切なことと言又、創造活動を真に発展させるためには当然、内外の交流を日常的に計りましょう。

(一)

「はぐるま」の民芸との交流、「京浜協同劇団」の八代表の参加等、組織的にも連帯は前進して居ります。

二三に向けての新劇人会議の総決起集会への「東り演」京都市府知事選における新劇人会議との連帯から、六、です。

的演劇の真の発展のために努力することは、特に重要が積極的に専門家と交流し、相互理解を深め、民主主義機会を揃えて私たちの研究会に又各プロダクションや各劇団れました。

専門家から学ぶべきこととは限りなくあることも教えてくは一つであり、そのために連帯は必要であり、私たちが帯のいとぐちが生れ、職業、非職業の別はあつても目的いにして青年劇場の加盟から、それ以前とは違つた、進的演劇の発展のために努力する姿勢の必要性です。幸よりな多くの劇団と緊密な連帯をもつて、共に民主主義とは専門家から学び交流し、新劇人会議に参加しているりまでもありませんが、特に重視しなければならぬこと価値ある遺産を学び継承して行くことが大切なことと言又、創造活動を真に発展させるためには当然、内外の交流を日常的に計りましょう。

四、若いエネルギを重視し、専門家との積極的な交流を、

以上のように一九七〇年代労働者階級を軸とした広範な日本国民の生活とたたかひの中で、共にたたかひの連帯の環をひろげ、民主主義勢力が米日反動勢力を上まわる力に急速に成長するために私たちは民族的で民主主義的演劇運動の環を必死でひろげ、確固たる影響力を与えるまでになりたいたいと切望します。そのためには広範な人に心からうけ入れられる創作と舞台をつくることとが目標であり、大衆性と芸術性を統一的に発展させなければならぬ困難な事業でもあります。作家としても演出演技にしても、すべてのスタッフにしても、方法的に専門家としての系統的なねばり強い追求が不可欠でありますから、労働者、勤労者としての日常の生活、責任に加えて、これはかなり厳しい現実であります。このような条件で活動家として芸術家として演劇運動を一貫してやり抜くことは尋常なことではありません。しかも職業劇団に身を投じ、選ばれてやり抜く立場とは事情が

(一)

異なり、困難さの内容も異なる業余形態の集団の多い「東面り演」に在つては、初めから演劇を熱愛して入る人はまれであり、物質的報いの全く無い芸術活動であり、その上、詩や小説、美術や楽器や歌謡を、心のおもむくままに一人で或は気の合った同志で、(一般には)社会的責任を始めから考えないでもやつて行ける趣味的な要素を中心に在つては出発点からやつて行けない、集団的な総合的な芸術であります。新入団員に対しては古い人々と全く同じように扱ふことはなほにしても、新しい人がやりたい役や、やり甲斐のある責任ある仕事を自分の手にするまで職業劇団程ではなくても、時間がかるし、人々にたいして居心地の良いように配慮しても、民主主義的な運営に心をくだいても、その劇団の新鮮な創造活動、いきいきとした雰囲気があればいかなる部分、目に見えないようなつましいセクションを担当しても、喜びとなり、励ましとなるような劇団の活動と成果が皆無であれば、新しい人の定着度はそれだけでも薄くなります。初めから困難を強いることなく、新しい人を育てることとはとてもむずかしいことです。この点が、たとえ業余であつても私たちと、労演、労音、うたごえ、等の大衆的文化サークルとの違いであります。劇団員の拡大と言

田淵穉氏を演出者として招聘したこと、質を高めるために学ぶこと、利益は大きいと思います。

更に重要なことは菅井幸雄氏等も日頃から「東西演劇」に深い関心を持ち、私たちの作家のドラマツルギをさらに突込んで検討するように示唆する発言も最近行なっております。(民主文学七月号所載)大橋喜一氏も私たちへの協力をおしんではおりません。しかしながら「悲劇書劇」九月号の尾崎宏二氏との対話で、重要な問題を提起しております。生半可にその論旨を要約するのは無責任になりますから、この場では行ないませんが、専門家と私たちの多数をしめる地域劇団との構について感想をのべているのです。これらの問題から私たちが学ばなければならないことも専門家との交流を深めることは当面、運動上においても極めて有益だと思えます。私たちの運動を、広い理解と支持の下で展開するためにも。

発足当初はともかくとして、最近では運動としても考案方としても偏狭なセクト的なものは私たちにない筈です。繁忙の中でも、この問題は積極的に打開するべきです。繁忙の中でも、この問題は積極的に打開するべきです。そして、相互に妥協ではない、道理にかなった連帯の道すじを獲得するべきです。

田淵穉氏を演出者として招聘したこと、質を高めるために学ぶこと、利益は大きいと思います。

更に重要なことは菅井幸雄氏等も日頃から「東西演劇」に深い関心を持ち、私たちの作家のドラマツルギをさらに突込んで検討するよう示唆する発言も最近行なっております。(民主文学七月号所載)大橋喜一氏も私たちへの協力をおしんではおりません。しかしながら「悲劇書劇」九月号の尾崎宏二氏との対話で、重要な問題を提起しております。生半可にその論旨を要約するのは無責任になりますから、この場では行ないませんが、専門家と私たちの多数をしめる地域劇団との構について感想をのべているのです。これらの問題から私たちが学ばなければならないことも専門家との交流を深めることは当面、運動上においても極めて有益だと思えます。私たちの運動を、広い理解と支持の下で展開するためにも。

発足当初はともかくとして、最近では運動としても考案方としても偏狭なセクト的なものは私たちにない筈です。繁忙の中でも、この問題は積極的に打開するべきです。繁忙の中でも、この問題は積極的に打開するべきです。そして、相互に妥協ではない、道理にかなった連帯の道すじを獲得するべきです。

### 五、「東リ演」の運動の発展のために、労苦を共にし、更に連帯を強めよう

いつも持てる力を百パーセント否それ以上のエネルギーをそそぎながらの創造普及教育、その他の多面的な劇団活動が、すべての集団に必要とされています。その上、ここまで発展してきた「東リ演」の活動を常に念頭に置いて努力している(かなり不十分な部分もあるのですが)選出された役員の人たちにとって、現在かなり劇団と「東リ演」との力の比重の問題では矛盾ができておきます。

例えば「演劇会議」刊行所の責任を、細かい業務から集金、発送に至るまでを負って、「東西演劇」の加盟劇団や読者たちにとっては此の上ない貢献をしている坂坂氏と所属劇団との矛盾、これは「労芸」の内部問題として「知らぬ半兵衛」をきめこんでいることも心苦しい限りです。又東日本の地域劇団の多くから個人的にも絶對的な信頼を寄せられて各地にオルグし刊行所の編集まで力をそそいでいる黒沢議長は、又「東リ演」にとっても大切な作家ですが、いわんや協同劇団にとっては指導者

としても座付作者としても支柱として常に中心にいなければならない存在であります。現在「東リ演」としても実質的な看板であり支柱でもありますから、これらの矛盾をどうするかと言う問題もあります。その他三人の事務局長にしても劇団の指導のメンバーであり、劇団としては劇団活動に専心して欲しいという希望は強いと聞いております。

以上、先づ個々の問題として提起しましたが、これらの矛盾は「東リ演」としても解決する手段はあります。これらの矛盾の原因の第一に「南リ演」と各加盟集団との関係が、理念的にも組織的にも不明確であることが指摘できます。発足してすでに七年を経て、各劇団員の多くの構成員に「東リ演」の果す役割と自分たちの関係が未だ明らかでないのみか、「東リ演」そのものの認識も甚だ薄弱であるという点とも会議の席に出されます。民主主義的演劇の発展のための拠点としての「東リ演」の役割を、自らの自覚的な役割を統一して捕えるような教宣が劇団活動、プロツ会議等で、きちんと行われる必要があります。そこで初めて特定の人以外によって「東リ演」としての仕事が、周回に日常的に展開され、少数の役員たちによる極めて限定された仕事では果せない実質的な活動となって積み重ねて行くこととしてしまふ。次

### 六、リアリズム演劇運動を理論的にも強化しよう

私たちが「リアリズム」を冠した名称で、結果していることは主として、戦前の絶対的天皇制の下における鬼暴なリアリズムの支配の中で、民主主義演劇をきり開いてきた光榮ある伝統を継承し発展させたいと希ったからであり、又世界最初の社会主義リアリズムとの関連にか

に前述した各加盟集団の要求と方針を統一させる努力を省することです。「東リ演」自体のいきいきとした活動は、傍観的な批判だけでは生れません。私たちの目的を実現するための「自覚的な規律」を私たちが全員が持つことによつて、初めて「東リ演」が拠点としての機能を発揮できるのです。最後に現在の組織構成をもっと皆の力で發揮できるものに整えて行くことです。このことは常任運営委員会でも話し合われましたから、具体的には口頭で提起したいと思えます。

以上の問題は「東リ演」の運営は皆の努力で、乏しい財政の中で、どの様に苦勞を分かち合ひかという積極的な姿勢で、七〇年代を考へて行くことという提案であります。

いて、その価値ある遺産からも学ぶ姿勢を持っていたからに外なりません。

現地点では、「われわれの作家が、われわれの仲間だけが関心をもつような問題を、われわれの仲間だけに理解できることばで、明確的に描く傾向があるが、そういう問題でも、たとえは党生活や進歩的な労働者の闘争を描く場合でも、幾百万人民の生活との結びつきのみかて描かれなければならない……」

又「芸術とは、いわば芸術家と一般大衆との「対話」であるわけで、両者を結びつける手段、媒体がなければなりません。……」「両者を結ぶ媒体となるものは、現実——つまり自然と人間の生活です。……」だから現実との対決をさける表現や方法論は、真実を欺いかくそりとする支配階級の意図に同調し、助ける役割を果たすものであるから「民主主義的な芸術家はこゝろ現実に直面から立ちむかひ、それと対決しなければなりません。その意味で私たちは基本的に芸術上のリアリズムを主張しているわけですが、「又、蔵原惟人さんの言葉からの引用ですが、私たちがリアリズムを主張するものもおおよそ以上の内容にあてはまると思っています。

私たちのリアリズムは流派ではありませんから、このように主張し、又創造で舞台で、これらの主張を行ない、

しかしながら、現在、私たちは「東リ演」の運動や目標を、理論化するところにはまだ行っておりません。「東リ演」結成にあたっては、一語にやっ行ってける基本的な観点を、少なくともこの点とこの点において結果として行こうではないかという、当面の必要性から、緊急に提起したのが創立の趣旨であります。

現在私たちは、それらを基本に据えて、実践の中で深め、実践を理論の成果から、私たちの綱領を保持してはないかと言っています。昨年度も、総会の前の運営委員会で問題として提起され、本年度は創造運動、批判活動、上演活動と共に、創造理論、運動理論を「演劇会議」に積極的に反映させ、討論を深めることの重要性を深めることとなったのです。吾々が創造や運動の理論を深めることは極めて重要です。たとえ不十分でも、民主的な演劇の発展のために、盛に問題提起し討論を深め、私たちが運動綱領を固めて行くことではありませんか。積極的な協力をお願いします。

■ 東リ演会費

団体加盟 劇団員二十五名以上 月額 2500円  
劇団員二十五名未満 月額 2000円

個人加盟  
月額 1000円  
(七〇年八月改正)

季刊 演劇会議

創造・普及の具体的な交流  
論文・レポート・戯曲・劇評

東西リ演合同機関紙  
A5・一五〇頁三頁

演劇会議刊行所  
川崎市上平間1275  
044(52)8815

加盟申込書 (様式)

- (1) 加盟の決議
- (2) 劇団の歴史
- (3) 最近のレパトリリーと普及数
- (4) 劇団の人員(男女、年齢別)
- (5) 劇団所在地・電話番号
- (6) 劇団代表者氏名・略歴
- (7) 劇団の綱領・規約を添付
- (8) 最近の公演資料を添付

東リ演加盟のしおり

発行 1971年11月1日  
編集・発行所 東日本リアリズム演劇会議  
静岡市昭府町289の2  
電話 0542(71)7837

頒 価 50 円